

第5回創生本部会議(10月1日)における市町村長からの主な意見・提案

資料3

項目	市町村名	意見・提案
人を大事にし、人を育てる	大分市	1 県と連携して実施した不妊治療費の3割負担が出生数増加の後押しとなればと考えている。
		2 待機児童数が全国ワースト4位となった。これは新制度により要件緩和されたために待機児童数が増えたためだが、それだけ潜在的なニーズがあるにもかかわらず、これまで対応できていなかったためと受け止めている。しっかりと施設の増改築と保育士の確保の両面に取り組んでいく。
	臼杵市	3 広域的な婚活支援については、臼杵市も一緒に取り組ませてほしい。
	津久見市	4 津久見市は女性の未婚率が県内ワーストで、男性の未婚率も高い。婚活をやろうとしても市が小さくこの誰か分かるので参加しにくいという若い人の声を聞く。市外から参加者を募る婚活をやっていかなければならない。
	豊後高田市	5 豊後高田市が社会増に転じた主要因は、婚活や子育て関連施策の拡充、移住施策などに積極的に取り組んできたからと考えられる。今後は、20～40歳を中心に2,400人程度いる未婚者対策に注力したい。
	宇佐市	6 子育て世帯への思い切った経済支援を行うため、子育て応援基金として3億円増加した。今後5カ年で10億円程度、子育て世帯への財政的な再配分を進めていく。
		7 子育て支援策の1つとして、「子ども医療費の無料化」というのが常に議論に上がるが、医療費の無料化の枠を広げるほど、医者への負担が増加する。県には、医師の確保と地域医療の整備をお願いしたい。
	国東市	8 今、注目しているのは「完結出生児数」。これが国全体では2人を下回ったとのことだが、国東市ではほとんど減っていない。つまり結婚すれば子どもが生まれるということで、やはり婚活対策に積極的に取り組んでいきたい。
		9 婚活イベントに参加した女性からのアンケート調査で、「参加する男性側の情報が事前にあれば参加しやすい」という声が多かったため、今回から、男性の写真やプロフィール等を事前に公開し、それを見た女性が応募するというやり方に変えたところ、3週間で2,800件ものHPへのアクセスがあった。
	日出町	10 広域の婚活支援には賛成。単独市町村内での実施にとどまらず、若い世代に伴侶を求めていただく機会を広く提供すべきである。
	玖珠町	11 不妊治療や保育園の環境整備に、玖珠町はかなり力をいれている。認定こども園の整備には国基準以上の補助金を支出し、通いやすい環境づくりに努めている。
		12 平成31年に7つの中学校を統合する。その際、県立高校と町立中学校の中高一貫校の教育体制がとれないか。九重町の緑陽中学校では4中学校の統合により学力が向上したと聞いている。また、先生の異動間隔が3年程度では短いと感じている。地元への愛着を持ってもらうよう、もう少し長く勤務できる体制がとれないか。

仕事をつくり、 仕事を呼ぶ	大分市	13	企業誘致について、サービス業を中心に大分市内に関心のある企業があると伺っているが、市の東京事務所には職員が1人しかおらず誘致のノウハウも限られている。引き続き県の支援、連携をお願いしたい。
	佐伯市	14	総合戦略を作るにあたり、沿岸部と山間部では考え方が異なる。沿岸部では水産、山間部では林業を中心に、第一次産業を活性化させることが地方創生に繋がると考えている。
	臼杵市	15	交流人口の増加に向け、中部振興局管内と愛媛県八幡浜市とで交流を進めている。県として観光だけでなく、市民レベルの商品開発等への支援もしてほしい。
	竹田市	16	竹田市は有効求人倍率が1.5を超え、県内で最も高くなっているが、これはむしろ高齢化率が県内最高という結果として働き手がいけないという状況が影響していると捉えている。こうした労働環境の改善について、県と連携して取り組んでいきたい。
	杵築市	17	生薬栽培の基地として、山香の農業高校の跡地が選ばれた。生薬に限らず安全安心な農産物の生産体制を国東半島・宇佐地域で広げていくため、JGAPや国際基準の取得を進め、県と国東半島・宇佐地域が一体となって海外へ輸出ができるようにしていく。
		18	民間金融機関等と連携した海外への販売促進や商談会の開催、九州の西部の方では中国等に積極的に売り込みに行っている。ぜひ大分も宮崎とかと組んでやってほしい。金融機関もそこら辺の動きが活発になっている。
	宇佐市	19	広域行政を担う県として、世界農業遺産や豊の国千年ロマンのような取組を諸外国に積極的に情報発信してほしい。また、インバウンドの受入体制についても県の指導がほしい。
	豊後大野市	20	豊後大野市はまだ県内でも認知度が低いと思う。認知度向上に向けたPR動画を作成するとともに、東京の浅草の商業ビルを拠点としたアンテナショップ開設に向けて準備を進めている。浅草という土地柄を踏まえ、外国人のお土産に特化して取り組みたい。
	由布市	21	観光地である湯布院町、大分市のベッドタウンである挾間町は特段、人口減の心配はないが、最も懸念されるのは中山間地の庄内町。庄内町の人口増対策として、親子間での継承も含めた農業の後継者確保と3世代同居を進めていく。3世代同居には手厚い補助をしていきたい。
		22	「クアオルト構想」を進めるため、全国7自治体と「日本クアオルト協議会」を立ち上げたところ。これには、健康・医療・環境・景観・観光といった様々な分野から取組を進めている。
	姫島村	23	自然増対策として婚活支援や地域包括ケアに取り組む他、社会増に向けて基幹産業である水産業の振興やジオパークによる交流人口の拡大などに取り組んでいく。
	九重町	24	九重町には大きな会社が無いので、町100%出資の株式会社を設立し、町有施設の管理や特産品のインターネット販売などの受託機関としての役割を担い、安定した雇用をつくりたい。
		25	県への要望として、①玖珠工業団地への企業誘致、②県と市で連携したインバウンドに向けたPR強化、③スポーツツーリズムへの引き続きの支援 をお願いしたい。
	玖珠町	26	大消費地の博多に近い特性を活かし、玖珠の特産野菜をどのように売り出していくか考えていきたい。また、企業誘致は九重町と連携して力を入れていく予定。
27		隣の由布・日田両市に比べ、観光産業で大きく遅れをとっている。その中で、台湾にターゲットを絞った観光施策を考えている。赤と鯉は台湾では縁起の良いもの。玖珠のくぐり抜け鯉のぼりなどをPRして交流人口を増やしていきたい。	

地域を守り、 地域を活性化 する	大分市	28	県外からのUIJターンを進めるため、県外で子どもを育てていた世代が大分市内の祖父母宅に同居したり、近隣に帰ってきた場合に補助する制度ができないか検討している。事業化の際には県の移住コンシェルジュにも協力をお願いしたい。
	別府市	29	高齢になる前の世代に移住してもらうようお試し移住などを進めていく。併せて「二地域居住」を進め、空き家対策と移住施策をセットで進めていきたい。
	臼杵市	30	首都圏の方に移住してもらうため、市のHPでハローワークの就職情報を掲載し、ハローワークに行かなくても市のHPで就職情報が見れるようにしている。
	竹田市	31	移住定住策については、とにかく移住希望者のニーズを把握し、きめ細かな対応を心がけている。また空き家については、仏壇と水廻りと浄化槽の問題でなかなか住めるようにならないため、仏壇と水廻りを家主さんが改善する際の補助制度も創設した。
	杵築市	32	移住希望者に対して、事前に移住後の生計をイメージできる提案をすることが大事。やりたい仕事で200万、プラス地域に役立つ仕事で100万程度、計300万円というプランを事前提示して若い人に来てもらうよう取組を進める。
		33	大田村に海外の人が来るようになった。体験したい、地域の人と交流したいというツーリズムが脚光を浴びているので、農業を主体とする国東地域で、県の力を借りながら進めていきたい。
	豊後大野市	34	高規格道路が完成し、大分市も通勤圏内となったため、住環境の良さをPRしていきたい。住環境施策の1つとして、COCで日本文理大学建築学科の学生とタイアップして住宅をデザインし、市内の空き地を利用して安価な新築住宅を整備したいと考えている。
	国東市	35	移住者の方から指摘されたのは「医者不足」であること。特に小児科や産婦人科不足については不満の声を受けた。これについては移住者に限らず地域住民からも同様の声を伺っているところ。
36		キャンボンやソニーの工場が誘致されたとしても、その従業員の住居整備が追いついていないということも問題。特に幹部クラスはマンションを希望するが、その需要に応えられていない。こうした外からの移住者に対する住居支援を意識したまちづくりにも取り組んでいく必要があると考えている。	
基盤を整え、 発展を支える	日田市	37	周辺部の人口減少が進む一方で、生産の場は特定地域に集中していることから、社会資本のあり方と総合戦略のあり方を一緒に考えていかなければならない。
	佐伯市	38	佐伯市は公共施設数が県内で一番多く、その整理や活用をどうするか、それを含めた総合戦略の策定に取り組んでいる。
		39	国道326号線について、東九州自動車道の開通によって6月までは交通量が落ち込んでいたが、今は回復してきた。もう少し様子を見て、宣伝も打っていきたい。
	日出町	40	地域格差をなくすためには、町道の整備も重要。JR日出駅周辺でも過疎が進んでいる。駅前後の国道と県道をつなぐ道路整備をするなど、県にも支援いただきながら進めていきたい。